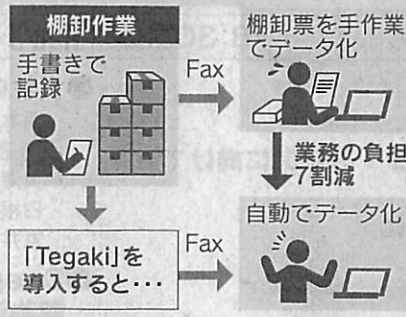


自動で書類デジタル化

いずみHD 事務作業7割減

いずみHDは棚卸しなどの業務効率化を進める



AI使う技術導入

始めた。
 今後は飲食店など取引先からの注文書も自動でデジタルデータ化したい考え。また、セリや入札をタブレット端末で記録し即座にデジタルデータ

化して市場取引を可視化することも目指す。
 いずみHDとコージェントラボはこうした追加機能を共同開発し、2020年中に同業者をはじめ他社に外販するサービスを始める計画だ。いずみHDの泉卓真社長は「事務作業の負担が減れば、営業などの人材強化などにもつなげられる」と話している。

業務用食品卸のいずみホールディングス(HD)は手書き書類を認識してデジタルデータ化する技術を活用して業務を効率化する。

コージェントラボ(東京・港)のサービス「Tegakil」を導入。棚卸しの記録書類などをデータ化し、手作業での打ち込みなど事務作業の負担を減らす。今までは倉庫など棚卸

しする現場が手書きで記録し、ファクスで送られてきた書類事務所で手入力でデータ化していた。

コージェントラボのTegakilは、ファクスで送られた書類を人工知能(AI)による光学式文字読み取り装置(OCR)で自動的にデジタルデータ化でき、事務作業を7割減らせるといふ。10月から試験的に導入し、12月から本格稼働を